

第99回全日本テニス選手権 男女ダブルスを制覇!



女子ダブルスに優勝した森崎可南子(右)とパートナーの林恵里奈

写真=安藤晃



男子ダブルスに優勝した渡邊聖太(左)とパートナーの柚木武

写真=伊藤功己

10月2日から13日にわたり、有明コロシアムおよび有明テニスの森公園で、「三菱電機ビルソリューションズテニス天皇杯 2024 第99回全日本テニス選手権」が開催され、所属選手の多くが出場し奮闘した。特に女子ダブルスでは森崎可南子が3度目の優勝を果たし、男子ダブルスでは渡邊聖太

が2連覇を達成している(※詳細は次ページ)。また、井上明里が瀬間詠里花と組んで出場し、現役最後の試合を戦った。シングルスでは、小堀桃子和若手の北原結乃が予選を勝ち上がり本戦1回戦に勝利している。渡邊聖太と小関みちかは本戦からの出場で2回戦に進出した。全員の結果は下記の通り。



女子シングルスで予選を勝ち抜いて本戦2回戦に進出した小堀桃子

所属選手の結果

男子シングルス

渡邊 聖太 (橋本総業ホールディングス)

- 1R 6-4 7-6(4) 菊池玄吾 (エキスパート/パワーシズオカ)
- 2R 7-6(4) 4-6 2-6 片山翔 (伊予銀行) [8]

河内 一真 (橋本総業ホールディングス)

- 1R 1-4 Ret. 田中佑 (筑波大学) [Q]

男子ダブルス

渡邊聖太／柚木武 (橋本総業ホールディングス/イカイ) [1]

- 1R 6-3 6-3 伊藤竜馬／片山翔 (興洋海運/伊予銀行)
- 2R 6-3 6-2 有本響／菅谷優作 (慶應義塾大学)
- SF 6-3 6-10-9 今村昌倫／市川泰誠 (JCRファーマ/ア・インフアスチー) [3]
- F 6-6 7-10-3 上杉海斗／野口政勝 (江崎グリコ/ONE DROP)

河内一真／松田龍樹 (橋本総業ホールディングス/ア・インフアスチー) [2]

- 1R 4-6 4-6 上杉海斗／野口政勝 (江崎グリコ/ONE DROP)

女子シングルス

小関 みちか (橋本総業ホールディングス)

- 1R 6-2 6-0 吉岡希紗 (こみぞ眼科)
- 2R 4-6 1-6 佐藤光 (アクロスステシアアカデミー) [9]

小堀 桃子 (橋本総業ホールディングス)

- 予選 1R 6-2 6-1 新見小晴 (柳生園テニスクラブ)
- 予選 2R 6-2 6-3 大脇結衣 (チーム ralosso) [15]
- 1R 6-1 7-6(5) 大前綾希子 (橋本総業) [9]
- 2R 7-6(8) 6-7(5) 2-6 西郷里奈 (東急スポーツシステム) [5]

北原 結乃 (橋本総業ホールディングス)

- 予選 1R 7-5 3-6 6-3 大橋麗美華 (慶應義塾大学) [12]
- 予選 2R 7-6(2) 6-0 大川美佐 (リコー) [24]
- 1R 6-3 6-3 金子さら紗 (早稲田大学) [Q]
- 2R 5-7 7-6(7) 3-6 山口芽生 (フリー) [7]

瀬間 詠里花 (橋本総業) [12]

- 1R 6-2 6-7(3) 5-7 木下晴結 (Team Rise)

大前 綾希子 (橋本総業)

- 1R 1-6 6-7(5) 2-6 小堀桃子 (橋本総業 HD) [Q]

森崎可南子 (橋本総業ホールディングス) [7]

- 予選 1R 6-0 6-1 三枝夏子 (こみぞ眼科)
- 予選 2R 6-7(7) 1-6 金子さら紗 (早稲田大学) [21]

小林ほの香 (橋本総業) [14]

- 予選 1R 6-2 6-3 高野りさこ (与野テニスクラブ)
- 予選 2R 2-6 6-3 3-6 吉本菜月 (筑波大学)

奥脇莉音 (橋本総業) [4]

- 予選 1R 3-6 1-6 吉本菜月 (筑波大学)

女子ダブルス

森崎可南子／林恵里奈 (橋本総業ホールディングス/セーレン)

- 1R 5-7 6-2 [10-4] 奥脇莉音／永田杏里 (橋本総業/島津製作所) [4]
- 2R 6-2 6-3 山崎郁美／清水映里 (島津製作所/東通産業)
- SF 6-3 7-5 小堀桃子／佐藤南帆 (橋本総業 HD/三田興産) [1]
- F 5-7 6-2 [10-8] 今村咲／阿部宏美 (EM システムズ) [2]

小堀桃子／佐藤南帆 (橋本総業ホールディングス/三田興産) [1]

- 1R 6-1 6-2 原口沙絵／大川美佐 (リコー)
- 2R 6-2 6-4 川崎このは／網田永遠希 (野田学園高校)
- SF 3-6 5-7 森崎可南子／林恵里奈 (橋本総業 HD/セーレン)

奥脇莉音／永田杏里 (橋本総業/島津製作所) [4]

- 1R 7-5 2-6 [4-10] 森崎可南子／林恵里奈 (橋本総業 HD/セーレン)

井上明里／瀬間詠里花 (橋本総業)

- 1R 1-6 1-6 山崎郁美／清水映里 (島津製作所/東通産業)

小関みちか／奥石亜佑美 (橋本総業ホールディングス/フリー)

- 1R 4-6 4-6 吉川ひかる／西本聖良 (フクシマリレイ/トップラン)

女子ダブルス
WOMEN'S DOUBLES

苦しい時期を乗り越えた ベテランペアが逆転勝利！

森崎可南子／林恵里奈組はノーシードでの出場だったが、森崎は2017年と2019年のダブルスを制しており、林は2018年のダブルスタイトル保持者で経験豊富なペア。準決勝で第1シードを破り、決勝では第2シードの今村咲／阿部宏美組との対戦となった。森崎のサービスは安定しており、林の前衛での動きもよく順調にキープ。しかし、林のサービスゲームがブレイクされ苦戦していた。

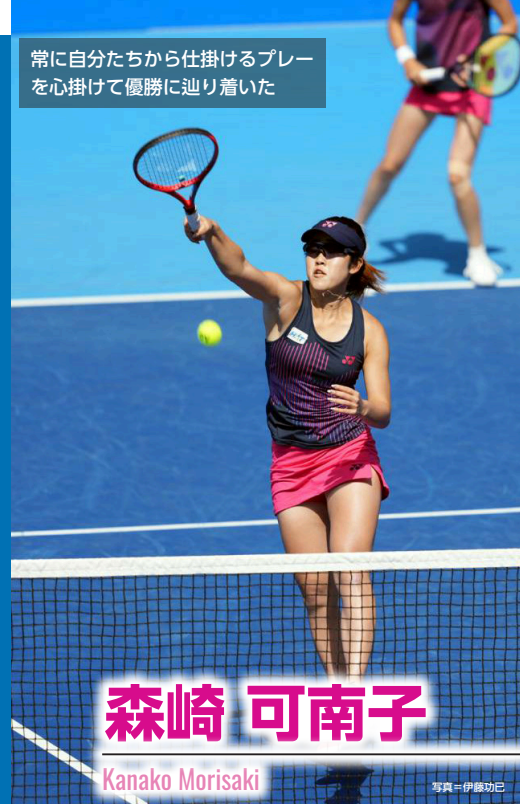
「積極的に攻めるのが武器。自分たちからポイントを取りに行こう」と声を掛け合い、第1セットを5-7で落としても、その姿勢を貫く。リターンはストレートを頻繁に狙い、コースチェンジを積極的に仕掛けていく。ブレイクされていた林のサービスゲームでキープに成功すると、相手ペア

の精度が少し落ちたこともあり、6-2で取って10ポイントタイブレークへ。自分たちから仕掛ける手を緩めず、リードを保ち続けた森崎／林ペアがノーシードから頂点に立った。

チャンピオンズスピーチでは、2人ともが「苦しい時期を乗り越えて」優勝したことを喜び、森崎は「3回目の優勝ですが今回は1番うれしいです」と涙を見せた。

28歳の森崎にとって苦しい時期とは、「学生とプロの違いに直面して自信をなくしている時でも、プロなので勝たなくてはならないプレッシャーに押しつぶされていた」状態の時。テニス人生で初めて「辞めてもいいかもしれないと思った」と言う。変化があったのは約1年前。牟田口恵美コーチと出会ったことで、この1年をかけて立

常に自分たちから仕掛けるプレー
を心掛けて優勝に辿り着いた



森崎 可南子

Kanako Morisaki

写真＝伊藤功巳

て直すことができたのだ。30歳の林もケガが続いて苦しい状況が続いていた。だからこそ森崎は、「恵里奈ちゃんとの優勝は本当にうれしい」と、仲良しペアは2人で喜びを噛みしめた。

男子ダブルス
MEN'S DOUBLES

不協和音を解消して プロフェッショナルとして成長

第1シードの渡邊聖太／柚木武組は決勝でノーシードながらも実力は高い上杉海斗／野口政勝組と対戦。渡邊と柚木は、今年3月から組み始め、チャレンジャーでも優勝1回、準優勝1回という実績を挙げている。196cmの身長から繰り出す柚木のビッグサービスと、オールラウンドでコートカバーリング能力の高い渡邊のコンビネーションが持ち味だ。

第1セットを6-4で取り、第2セットも4-1とリードするが、反撃されてタイブレークでこのセットを落とす。しかし、10ポイントタイブレークでは2人が噛み合い、5-3から5ポイント連取で勝ち切った。渡邊は昨年に続き2連覇、柚木は初優勝だ。

第1シードが順当に勝ったように思えるが、実は1カ月前の「SBC ドリームテニス国際大会」で2回戦敗退を

喫した時に、ちょっとした言い合いがあったと言う。渡邊は「その時の（柚木の）行動にプロフェッショナルさを感じなかったの、その時僕が思っていることを打ち明けました。結果は仕方ないのですが、それまでのプロセスをもっとやってほしいと…」柚木に伝えた。その時は言い合いだったかもしれないが、「その後のプレーにも練習にもつながったし、言ってもらえたのは本当に感謝しかありません」と、渡邊の勇気ある行動に、柚木は変化で答えた。

「今回は試合の前夜にお互い対戦相手の動画を見ておき、試合当日にはそれに対する意見交換、そして試合前の練習では、30分のアップとかではなく、今日も1時間15分練習しました」とプロフェッショナルらしい行動をしている。生じた不協和音をそのままにせず、お互いの思いをぶつけ合ったからこそつかった優勝だった。



渡邊 聖太

Seita Watanabe

渡邊はストロークやコートカバーで力を発揮している。

写真＝伊藤功巳

柴原瑛菜がダブルスで ジャパンオープン優勝!

10月14日(月)から20日(日)まで大阪のモリタテニスセンターで開催されたWTAツアーの「木下グループジャパンオープン 2024」で、柴原瑛菜がダブルスで優勝を果たした。ラウラ・ジーゲムント(ドイツ)とは初めて組んで第3シードで出場。接戦を勝ち抜きながらコンビネーションを深めていき、決勝では第4シードに逆転勝利して頂点に立った。

柴原は、「全体的には、自分を信じたことが良かった。風が強かったので、サーブでそこまでパワーが出ている気がしなかったが、プレースメントと、スピンやスライスをまぜることで相手を苦しめることができた。パートナーと、ずっと話し合いながらできたから、1試合ずつ勝てたと思う」と喜びを語った。



WTA250
日本・大阪
10月14日～10月20日
ダブルス優勝

WTA250
DOUBLES
優勝

柴原 瑛菜

Ena Shibahara

パートナーのジーゲムントと今季初優勝をつかんだ柴原



ITF W35
DOUBLES
準優勝

ITF W35
アメリカ・レディング
9月30日～10月6日
ダブルス準優勝

坂詰 姫野

Himeno Sakatsume

テニスを再利用し、キュートなボールアート!



みらい市でテニスクリニック&ボールアート

業界最大級の総合展示会「2024 東京ハイブリッド みらい市」を、東京ビッグサイトで10月11日(金)、12日(土)に開催。例年作っていたミニテニスコートが設置できなかったため、今年は11日に有明テニスの森のコートで2面使用してテニスクリニックを実施した。プロによるワンポイントレッスンやプロに挑戦の時間もあり、参加者は存分に楽しめた様子だった。

みらい市会場ではSDGsへの取り組みの一環として、選手が練習で使用したボールを再利用できるように、選手も参加してキッズ向けにボールアート製作を実施した。



みらい市でテニスクリニック&ボールアート



働くスキーヤー

ASAMIのコラム

橋本総業 HD 社員として働くアルペンスキーヤー片桐麻海が、スキーの魅力を楽しく、わかりやすく伝えます！

Photo:WATANABE Shin



ミラノ五輪出場へ向けてトレーニング!

こんにちは。橋本総業ホールディングス SC 所属、アルペンスキーヤーの片桐麻海です。現在、オーストリアのスチューバイグラッシャーというスキー場に来ています。

10月20日からシーズンインし、素晴らしい氷河の地でトレーニングすることができています。

8月に雪上トレーニングとしてニュージーランドへ行き、感覚を戻すためのエクササイズを多く取り入れながら本格的なシーズンにインに向けて取り組んできました。オフシーズンの平日は人事部の業務と並行して陸上トレーニングを行っていたため、その成果が実践ではどのように活かしているのか、また弱点を明確にし、強化すべ

きポイントを把握することで、本格的なシーズンインまでの時間を有意義に過ごすことができましたと感じています。

きっと多くの方がアルペンスキーのトレーニングについてご存知ないかと思うので。今回は私が行なっていることをご紹介します。

アルペンスキーのレースコースは、長くても1分強ほどで、それに合わせたミドルパワーに繋がるトレーニングをメインに行います。もちろん、技術向上をするためには練習を持続的にできる体づくりが必要のため、一定のペースを保った有酸素トレーニングや、重力や遠心力を全身で受け止めてスピードに繋げるための筋力トレーニング、俊敏な動きができるようなスピー

ドトレーニング、バランストレーニングなど、さまざまなトレーニングを行います。

また、トレーニングは良いパフォーマンスをするためだけではなく、思わぬアクシデントから身を守るための怪我予防にもなります。アルペンスキーはスピードを求めることで、自分自身が持つパワー以上の負荷がかかります。強化ができない関節や靱帯に負担をかけないためにも、特に筋力トレーニングは重要な役割を果たしています。

今シーズンの目標としては、昨シーズンに引き続き、アジア圏内で行われるファーストカップを中心に転戦し、本大会での総合優勝および種目別優勝を目指します。また、来季は2026ミラノ・コルティナオリンピックが開催されるため、参戦するための第1歩として、世界ランキング150位以内を目指して参ります。そして、12月からはファーストカップが中国にてスタートするため、今回のヨーロッパ遠征でレベルアップをし、良いスタートが切れるようトレーニングに励みたいと思います。

ミラノ五輪を目指し、良い結果をご報告できるように、頑張ってますので、みなさん応援よろしくお願いします！

シーズンインに向けてしっかりリトレーニングをしました。



PROFILE

片桐 麻海 Asami Katagiri

1999年7月13日 北海道生まれ。5歳からアルペンスキーを始める。青山学院大学卒業。中学1～3年生までU16強化指定選手。高校1年生の2015/16シーズンに全日本スキー連盟強化指定選手。全日本スキー選手権大会大回転3位。



ジュニアゴルファーたちがアメリカと日本で優勝!

アメリカに留学中の平仲朱那が、「International Junior Golf Tour Fall series #2」で優勝。10アンダーで今季2勝目を挙げた。

吉崎マーナがPGMゴルフリゾート沖縄で開催された「第5回宮里藍インビテーション Supported by SUNTORY」に2年連続で出場。中学1年生から高校2年生までの35人の女子ジュニアゴルファーによって争われる大会で、3アンダーで優勝を飾った。



Ayana Hiranaka

平仲 朱那

平仲朱那がアメリカのジュニア大会で優勝



Mana Yoshizaki

吉崎マーナ

17歳の吉崎マーナが地元で優勝